



まつど未来づくり会議
～松戸の強みを活かした未来への指針づくり～

教育分科会

発表用資料

イマジンまつど
～私たちの明るい未来をつくる～

平成21年11月7日（土）

分科会委員

- 海老名 みさ子
- 鎌形 武久
- 神山 真理
- 小林 恵美 (副会長)
- 三枝 雅信 (分科会長)
- 竹島 さゑ
- 難波 幸男
- 橋本 恵子
- 山口 和子
- 関 聡
- 山口 明
- 山口 昌郎



開催状況



- **第1回**：平成21年8月7日（金）17時10分～19時
- **第2回**：平成21年8月29日（土）13時～16時
- **第3回**：平成21年9月30日（水）13時～16時
- **第4回**：平成21年10月15日（木）13時～17時



政策

想い・課題意識

具体的な期待

07 子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする

- 個の学力に応じた学習環境のさらなる充実
- コミュニケーション力を育てたい
- 少子高齢化で小・中学生の数が減っているが、外国にルーツを持つ子ども数は増えている。そういう子どもたちが日本（松戸）の学校に入り、日本人の子どもたちと同じに学ぶ上で、考えたいこと
- 何が夢中になるものを一つ以上持つ子どもを育てたい
- ものづくりに興味をもち子どもたちを育てたい
- 体験学習を多く取り入れ、授業を楽しくさせたい
- 学校図書館の充実（財政を削ると、急る設備を有効利用することが大事。学校図書館に専門の司書がいれば、子どもたちに適切な図書提供ができる）と進めます。教科の調べ学習時、子どもたちの学習の採録が広がります。
- エコに関心のある教育を目指したい
- 読書読者の定着、図書館利用者の充実

- 学校でコミュニケーションの育成（授業一環作り）
- 年収が本来の教育活動に専らにできる環境をつくる（テラリストからの取組）
- 子ども達が伝統文化を学ぶ機会を得るために、市との協力がほしい
- 財政が厳しい中での場の確保、連携作り、共有
- 優れた指導員（先生）を確保する
- 子どもたちの個別対応を高める（個別の指導）
- プランの作成
- エコ、ものづくり体験（環境教育の推進）

スチーフと制作の先生、14日35.000の先生、人財育成の先生

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

08 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

- 生涯学習として利用できるスポーツ施設の充実に資する
- 児童のスポーツが身近なところで実践、参加できるように
- 本格的な、一人一つのホフアンティア参加
- 生きる力を育てたい。異世代交流で、
- スポーツを通じて世代を超えた交流の場を拓きたい
- 健康維持のため、子どもも大人も一人一種目以上のスポーツに参加するようになりたい
- 市立図書館の読書一歩たり市立図書館は市民の学習する場を大きく広げます。講座や発表、ミニコンサートなど、同じ目でそれに関する本取り等、市民の文化向上にもつながるのでは、
- 松戸の文化レベルの向上
- 読書館の充実（学校、中央図書館）

- 学校生活に、地域の人々の力を生かしたい
- 例）コミュニティ・スクール・スポーツ・コミュニティ
- 学校、教育委員会、地域の連携のつよ。読書と教育委員の連携が強いと思う。何となく進めたい
- 自分の生きがいを大事にしたい。自分一人の生きがいを、子ども達に伝えたい
- 老人は自分で楽しむ意味（文化）を持ち、学校にはクラブ活動などで楽しみを持てる日々（卒業後に向けて）
- 子ども達が一生を通じて学ぶ。教育文化、伝統づくりに取り組む（保にも取り組む）。海外に向けても取り組む。国を文化を育てていくことに。


子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

子どもたちが、自分の夢を、実現できるように、学校で、学ぶ機会を、増やしたい。

第2節 次代を育む文化・教育環境の創造

1. 子ども達が自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする
2. 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする
3. 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする



**子ども達が自らの将来の目標を持ち、
その実現に必要な知識や経験を得ら
れるようにする**

目指したい姿の宣言文



子どもたちが自立した人間になるために、地域の力と体験を活かした家庭、学校、地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す

指標案

- 学校ボランティアの数、種類
- 学校では「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数

市民の役割



- **家庭は学校や地域との接点を増やし、自分の家庭以外の子ども達や大人との関わりの中で社会全体で子どもを見守っていく**
- **家庭教育の見直し**
- **学校が運営しやすいように協力する**
- **市民が持つ力を学校教育、地域活動に役立てる（ボランティア）**

市民の役割



- **自分達の持つ種々の技術、能力を出し合って学校や行政に協力する**
- **市民は子供たちと接する機会を増やす**
- **市民は、専門分野を持つ人が子ども達に将来目標につながる機会を与えられるシステム作りを目指す**

行政の役割

- **学校図書館の充実に向けて、もっと研究し実現する**
- **図書館の拡大・充実（空教室の活用）**
- **学校経営しやすい仕組みを考えて、予算等もできるかぎり増やす**
- **行政は地域に「宿題道場」のようなものを開き、地元の人材を投入**
- **教育委員会は、地域力を把握し、活用する窓口をつくる**
- **学校は地域に求める「力」の情報発信をする**

行政の役割



- **教育委員会は、学校が求めている地域の力を調べ、住民に情報発信する**
- **学校は説明責任を果たす**



生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文

生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする

指標案

- 講座参加者（人数）、講座数（時間帯）⇒ニーズの把握

市民の役割



- **中・高齢者は、市や県が手を差し伸べるのを待つのみならず、積極的に自分の活動できる場を求め、あらゆる情報を探求する**
- **積極的に催し物を企画、参加する**
- **自分たちができることは自分たちでやる**
- **市内にある大学の活用**

行政の役割



- 自主的に参加しやすい会場、時間も色々に選べる工夫。体験、見学場所をつくる
- 市民の自主性・自発性・独創性を尊重する
- 催し物等、広報にて知らせる
- 市は、松戸にある全ての公共施設を有効に利用できるようなはからい、空きスペース等が無駄なく利用できるようにする



松戸の歴史や文化・伝統が保持
され、後世に伝えられるよう
にする

目指したい姿の宣言文

**誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、
皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工
夫をこらして、松戸を愛する人を増やす**

指標案

- **市外の人**の観光スポット等への来場者数。市内の人が市の観光スポットに、どれだけ繰り返し来るかのリピーター数

市民の役割



- **松戸のガイドをする（になる）ボランティアを増やす**
- **市民の意識を高めるよう、色々なところの見学コースつくる。遠足気分の盛り上がり**
- **祭りやイベントを多くする**
- **松戸の文化伝統継承のため、子供たちに伝える努力**

行政の役割



- ボランティア育成をさらに支援する
- 伝統工芸士の活用
- 市内案内役を多くつくる。行政の人がしっかり学ぶ

強調したい・伝えたい具体的な提案・メッセージ

□松戸の歴史・文化啓発活動

- マンガ松戸市（史を含む）の作成
- 松戸市の文化について、レベル向上のため
「松戸検定」の実施

今回の取り組みに対する分科会長としての想い

- **教育の分野は、息の長いテーマが多く結果を出すまでに五年、十年のスパンが必要であり、地道にしかし力強く施策を実行していくことが必要だと思えます。家庭・学校・地域が三位一体となつて、相互の絆を深め、信頼関係を築いていくなれば間違いなく明るい未来が待っているものと確信します。**
- **今後、細部施策実施の段階で困難な問題に直面することも考えられますが、その時は前記三者と行政当局の協議機関を設け、解決を図っていくことが肝要であると考えます。**